

①選挙制度130周年記念表彰及び広報誌

本年は、国民が初めて選挙により直接国政に参加することができるようになってから130周年に当たる記念の年です。

このような大きな節目の年に当たり、11月3日に、長年にわたり選挙の管理執行に精励した方や、明るい選挙の推進に尽力いただいた方など、顕著な功績を挙げられた方を表彰することといたしました。

表彰の栄に浴されます皆様に対しまして、心よりお慶び申し上げます。この表彰の栄は、多年にわたり明るい選挙の推進に御尽力され、数々の御功績をあげられましたことによるものであり、今日までの並々ならぬ御労苦、御精進に対しまして、心から敬意と謝意を表するものです。

また、総務省広報誌11月号では、選挙制度130周年の特集記事を掲載し、「選挙制度の歩みと今」をテーマに、過去と現在の選挙の違いを写真で見比べたり、現在と過去の選挙制度について説明しています。

この記念すべき年に、あらためて国民参政の意義と選挙の重要性を再確認し、政治や選挙に関心を持っていただき、積極的に選挙に参加してもらえれば幸いです。

【参考URL（総務省広報誌）】

http://www.soumu.go.jp/menu_news/kouhoushi/koho/index.html

②第25回参議院議員通常選挙啓発企画集の作成

今後の選挙啓発事務の参考とするために、第25回参院選で各選管が行った啓発事業の選挙啓発企画集を作成します。

都道府県選管の皆様におかれましては、ポスター画像等をご提供いただきますようお願いいたします。

作成した企画集は令和2年3月頃に各選管等に配布を予定しております。

③情報誌「Voters No.52」を発行しました【明るい選挙推進協会】

今号の特集は「参院選をふりかえる」です。今年7月に実施された参院選を、一橋大学の中北浩爾先生や上智大学の三浦まり先生など4名に、①選挙結果と今後の日本政治、②政治分野における女性の参画、③政党のメディア利用、④若者の投票参加 という4つの視点でふりかえっていただきました。

その他、神奈川県立高校における参院選を題材とした模擬選挙の取組事例や若者啓発グループ「岐阜県若者の選挙意識を高める会」が行った市議選の政策分析の取組み等を紹介しております。是非ご覧ください。

【問合せ先】（公財）明るい選挙推進協会 Tel：03-6380-9891

④「現職教員と連携した『主権者教育』教材作成プログラム」研究成果報告会開催 明治大学文学部（主権者教育アドバイザー） 藤井剛

2017年度から科研費を受けて、主権者教育に造詣の深い佐々木毅名誉教授（東京大学）、穴戸常寿教授（東京大学）、服部高宏教授（京都大学）から「主権者教育教材」向けの話題の提供を受け、現職教員と講義内容を「教材」化するワークショップを開催してきました。今回その報告会を10月19日に明治大学で開催しました。内容は、

①新科目「公共」の理論的支柱である土井真一教授（京都大学）が、出席者からの質問に答える形式で「公共と主権者教育の関係」を提示

②ワークショップに参加した3人の先生方からの報告

（峯川浩一教諭（群馬県立沼田高校：「市議と高校生の意見交換会」を実践）、金子幹夫総括教諭（神奈川県立三浦初声高校：研究者の講義から現職教員がどのように教材をつくるのかプロセスの紹介）、河村新吾教諭（広島市立広島工業高校：「自転車通学から考える地域の安全政策提言」の授業実践）

③藤井剛が実施した全国37自治体の教育委員会からアンケート回答から分析する「全国の主権者教育の動向」の報告

④桑原敏典教授（岡山大学）による「まとめ」という内容でした。

参加者からは、「日頃からの疑問に答えてもらった」「主権者教育の実践例を知り、これから実践したいと思った」「各都道府県教育委員会の取り組みを知ることが出来た」などの感想をいただきました。

主権者教育の現場では、理論的な問題はもちろん、まだまだ教材不足が深刻であるので、これからも教材作成のお手伝いを行いたいです。



主権者教育だよりへの情報掲載について

主権者教育だよりでは、主権者教育や選挙啓発に関する総務省や各選管などの取組を広く情報発信しています。自分たちの取組みやイベントを紹介してほしいという希望にも可能な限りお応えしますので、是非ご連絡ください。なお、配信は毎月月末を予定しています。

【問合せ先】総務省自治行政局選挙部管理課選挙啓発係 内山・堀籠・磯部 Tel：03-5253-5574 FAX:03-5253-5575